

令和5年度 第3回幕別町図書館協議会会議録

1 日 時 令和6年2月28日(水) 午後4時から4時40分まで

2 場 所 幕別町図書館研修室

3 出席者

(1) 委 員 8名

山根会長、山下委員、佐々木委員、本間委員、藤川委員、竹田委員、
増田委員、小笠原委員、※瀬藤副会長、江波委員は欠席

(2) 事務局 3名

岩岡図書館長、民安図書係長、西川司書補

4 会議次第 議事進行：山根会長

(1) 議事1 幕別町子どもの読書活動推進計画の達成状況について

「資料1 第4期計画の進捗状況」に基づき説明。

【説明】 事務局

- ・実施内容は、主に第3期計画からの継続となる。「1本と出会う機会をふんだんにつくる 1-1家庭での読書活動の推進 方策推進①マイファーストブックサポート事業に関わる取組」の(3)、「乳幼児期の読書習慣を継続することを目的として、小学校入学時における読書活動を推進する事業を検討する」という項目は新規の取組であるが、図書館キャラクターを使ったオリジナル絵本を小学校入学時にプレゼントすることを検討している。
- ・同じく、新規事業である「1-2地域全体における読書活動の推進 推進方策② 地域が連携した取組」については、(7)から(9)の項目があるが、学校との連携が不可欠であるため、実現するにはどのようにしたら良いか委員の方の意見をうかがいたい。
- ・子どもの読書活動推進のための方策の2、「子どもの身近に本がある環境づくりをする」においては、「推進方策①地域が連携した環境整備」の(7)が新規の取組となるが、読書バリアフリー方に基づき、大活字本、LLブック、バリアフリー映画など理解を深めやすい資料を積極的に収集した。

【意見・質問】 本間委員

- ・令和5年度は、利用者もイベントの回数も伸びている印象があり、それが読書量への増につながっていると思われる。それはわくわくできる工夫があるからだと思う。「絵本相談」の実施が0人ということであるが、どのようなものなのかイメージが浮かばないと参加が難しい。0歳のおはなし会などと抱き合わせで開催し、体験できた方が良いのではないか。
- ・また、「1-2地域全体における読書活動の推進 推進方策② 地域が連携した取組」の(7)について、学校での取組の説明があったが、生徒はゲーム性

があるもの、ポイントが貯まるイベントが好きなので、そういったものであれば良いかなと思う。幕別清陵高校とコラボ企画のように、各学校の図書委員にアイデアや意見を聞いた方が良いアイデアが生まれるし、コラボ企画という形の方が良いように思う。アンケートも効果的である。

【質問】 増田委員

- ・「絵本相談」とは、どのような形式で実施しているのか。

【回答】 事務局

- ・図書館で開催した「あそびの広場」の中で、おもちゃ遊びと読み聞かせが終わった後に、こんな絵本が読みたいなどの相談を受けると発信したが、参加者はそのまま帰られた。初の試みで手探りの状態確認であったため、周知もはっきりできていなかった。どのようにしていくか課題である。

【意見】 増田委員

- ・絵本のお悩みに応えますというより、車好きなら車が出てくる絵本など、“お子さんに合った絵本を紹介します”というコンシェルジュのような方が尋ねやすく良いと思う。イベントより、日常的に気軽に利用できる方が、赤ちゃん連れの方でも利用しやすいと思う。
- ・図書館キャラクターを使ったオリジナル絵本を小学校の入学時にプレゼントする取組をととても良いと感じた。絵本は読むが、読み物になると読まなくなり、絵本から読み物の間のつながりをどのようにしたらとよいかと悩みがちである。そのような点からすると、幼年童話と呼ばれるものは絵本と読み物との間をつなぐものである。『かいけつゾロリ』は内容が面白く、絵もたくさん描かれていて、字は多いが大きく読みやすい。ゾロリが好きな子どもは読み物に興味を持つようになると思うが、ゾロリのような本は少ないように感じる。そういった本を大事にすると読み物を読むことにつながると思うので、それを念頭において取り組んでほしい。
- ・所属しているババールだが、コロナ禍で人数が減ったものの、2月の読み聞かせで30人以上の参加があり、本来の状態に戻ってきたと感じている。既に実施しているかもしれないが、乳幼児健診の時に、読み聞かせの団体をPRするチラシを渡し知ってもらえることで、家で本を読む、読み聞かせに行く、図書館で本を借りるというようなサイクルが生まれ、地域と図書館がつながることになると考える。

【意見】 佐々木委員

- ・「2子どもの身近に本がある環境づくりをする 2-1 地域全体における読書環境の整備 推進方策①地域が連携した環境整備」の(7)について、特別な支援が必要な児童生徒の読書推進としてLLブック、バリアフリー映画など理解を深めやすい資料の収集に努めたとしていて、これはこれで素晴らし

い取組だと思うが、小中学校では昨今、不登校の生徒が増えているはずである。幕別町でも相談窓口を設けるなどさまざまな対応をしていると見受けられるが、不登校は大人になっても引きこもりという形で続くため、小中学校での対応が重要となる。「まっくざまっく」は、行けば出席扱いになるので、高校に行くための足掛かりとなる。本を好む生徒も多く、絵や小説を書いている生徒もいる。音更町の類似した施設では、図書館が生徒の趣味などに合った本を月一回、30冊程度貸出してくれている。幕別町図書館でも、そのような支援を「まっくざまっく」でしてほしい。

- ・また、目の見えない方に対する支援も良いと思うが、耳の聞こえない方に対する支援も検討してほしい。例えば、紙芝居は視覚的に効果的なので、手話による紙芝居の読み聞かせなど、そういったことも図書館の支援として大切なのではないか。

【結果】 その他、質問・意見・異議無し。

(2) 議事2 令和6年度 図書館運営計画【事業計画】について

「資料2 令和6年度 図書館運営計画【事業計画】」に基づき説明。

【説明】 事務局

- ・絵本作家の講座は助成金を活用し実施する予定であったが通らなかったため、北海道立文学館の「出前講座」で絵本作家の文章講座を申請中である。

【意見・質問】 増田委員

- ・絵本作家の講座は期待している。誰が来るのかももう決まっているのか。

【説明】 事務局

- ・助成金を活用した場合は、前回の協議会で提案のあった道内在住の絵本作家を招く予定であったが、北海道立文学館の「出前講座」は決められた絵本作家による講座であるため、申請が通ればその方が来ることになる。

【説明】 事務局

活用する予定であった助成金は民間企業のもので、今回は残念な結果となったが、来年度も他の助成金、補助金も検討し、絵本作家の講演会を開催したいと考えている。

【結果】 その他、質問・意見・異議無し。

以上